

サーバス東海北陸支部 会報 7月号

発行日:2022年7月吉日

東海北陸支部長: TM

「憎悪は憎悪にして止まず、愛によって止む」

スリランカ元大統領・ジャヤワルダナ

1951年のサンフランシスコ講和条約でのスリランカ(当時セイロン)代表で、後の大統領が仏典を引用し、賠償請求権を放棄し日本を国際社会に受け入れるように訴えた言葉です。

皆様、お変わりありませんか。蒸し蒸しと、暑い日本の夏が約束通り?!やってきました。頑張りすぎず、涼しい秋の為に、今は体力温存を心がけてはいかがでしょうか。

副支部長のKNさんに寄稿をお願いしました。沖縄旅の達人のKさんです。興味深いお話が満載です。是非、お楽しみ下さい。

本号の内容

- ① 新会員の紹介・メッセージ
- ② 「沖縄の離島を旅して」 by KNさん
- ③ 支部のお知らせ・お願い



① 新会員の紹介

MMさん(三重県在住・3月入会)

Hello, I'm MM, 19 years old. I'm studying medicine at Mie-University since this spring. These days, I practice the guitar and enjoy it, because I'm a member of a band and have a concert in October. I'm looking forward to the concert.

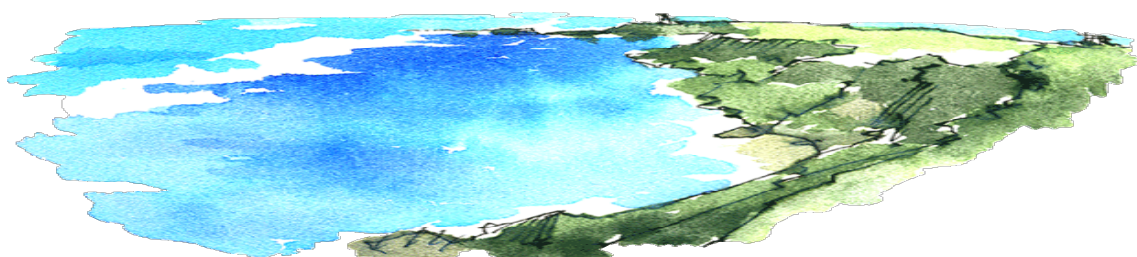
Why I joined Servas is my grandma's proposal. She is also a member of it.

I hope to experience a lot of various cultures and make foreign friends.

OSさん(松本市在住・7月入会)

サーバス会員の友人のお話を聞いて、自分も外国の方々と交流したり、旅先で少しでも役に立てたら良いなと思い入会させていただきました。

私自身も大学生の頃のボストン・短期留学の経験や、海外旅行での外国文化に触れることがとても好きだったので、これから外国の方と交流できることが楽しみです。コロナ禍でまだ自由な旅行が難しいかもしれませんが、8歳の娘と6歳の息子も楽しみにしています。



② 沖縄の離島を旅して

会員 KN

普段は、国内外への旅行や海外のトラベラー受け入れでアクティブなサーバスメンバーの人々も、ここ3年間はずっと収束しないコロナウイルスに普段の生活も様々な制約を受け、「早く何か楽しいことをしたいな!」と考える日々をお過ごししかと思います。

私は昨年の65歳の定年退職後に計画していた、自由な第2の人生プラン(ベトナム・ハノイでの「のんびり」駐在員生活)を実行しようとしていた矢先のコロナ禍で、これも儘ならなくなり、意図せずして「毎日が自由時間」の生活が始まりました。

退職前でも、私の生活は（仕事の関係で制約はありましたが）少ない趣味（海外旅行、学習・習い事等）の時間を、何とかやりくりしながら楽しんでいる様なものでした。そうした中で、この事態に出あわせました。

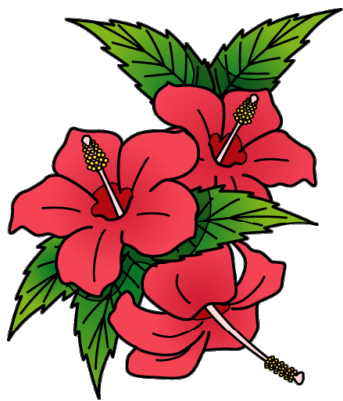
それを好機とばかりに、今まで制約からあまりできなかった習い事を幅広くやり始めるのと同時に、もう一つの柱「旅行」も色々準備・計画してきました。この状況ではさすがに行先は、海外とはいかないので国内でも海外旅行に近い感覚が味わえる「沖縄」と考え、ここを至近年6～7回の旅を楽しんでいます。

訪れるのは人の多い沖縄本島も良いのですが、石垣島に代表される先島・八重山諸島の島々への旅は、私にとり特に興味深いものがありました。

大学の同期に石垣出身の日本国費留学生で、卒業後沖縄県に奉職した親友がおり、そのついでで故郷の八重山の島々（波照間・西表・与那国等）を数回に渡り訪れる機会がありました。その中でも特に、日本最南端の有人島である総人口500人弱の「波照間島」での印象は強烈でした。

ここに生まれ、成人後この小・中学校の新人教員として赴任した思い出の地を、30数年ぶりに訪れる友人に同行しその知人・友人・教え子宅や生家探し、親類・縁者への挨拶等を傍目に垣間見る機会を得て、沖縄の文化・宗教・風土等の独特の成り立ちを私もここで追体験する事ができました。

この中で沖縄が経てきた過去の薩摩（鹿児島）や日本政府との関係ばかりではなく、沖縄本島の為政者（琉球王府）と隔絶した離島の島々の人々の圧政の日々迄が想起されました。末端に暮らす離島の人々の暮らしの厳しさに対し、それでも、明るくしたたかに生きる生活が、「祈り」（土着の祈り女「ノロ」と住民）と「自然への感謝」で成り立っており、これが現在まで引き継がれている事が島が小さいがゆえに、人間同士の濃密なふれあいを通し肌で感じられました。おばあさんが1人で待っておられました。小学時代の記憶を頼りに2人が昔の暮らしぶりを懐かしさと共に語り合うのです。その家の客間正面に鎮座する沖縄独特の大きな島仏壇（本土既存宗派とは違う独特の土着宗教）の前に座り、大ぶりの団扇で私たちのほうに風を送りながら、訥々と且つ親しげに話す様子は、当に「千と千尋の神隠し」の世界に迷い込んだ風景そのものでした。そして彼女の話す「島ことば」



それは驚くなかれ、「日本語の方言」のはずなんです、私には耳慣れない「全くの外国語」で何一つ聞き取れないのです。ここも日本国なのに、たった「一つの固有名詞」すら分からないのです。海外でも少しは理解できる言葉があるのに！ 日本広しと雖も、この事にはとても驚かされました。彼女は少しは、標準語を知っているのですが、生まれてからこのかた島の中だけで暮らしており生活には島ことばで十分なので、普段使いの言葉で話してくれただけなのです。

こうした他では決して得難い体験を通し、私に「人としての生活の原点」を見せてくれたような素晴らしい『沖縄離島の旅』でした。

また、こちらは何度も訪れたいところです。

以上



③ 支部のお知らせとお願い

涼くなったら、リアル?! 交流会や例会をしたいと考えています。企画アイデアを多数、募集します。こんな事と思わずに何でも、支部長に聴かせてちょ。

会員メンバーで、どえら〜こと企画して、サーバス旅行だけでなくサーバス会員同士の交流も楽しもまい。松本さんと奥原さんの新メンバーの歓迎会を兼ねて、やりたいがやあ〜。ええでにゃあか?

連絡先

東海北陸支部長・TM
email*

